

追 加 関 連 論 文

(乳酸カリウム)

追 1 相川直樹, 青木継稔, 青木幸昌, 明石巧, 秋澤忠男, 秋澤より子, 他. 医学大事典. 第 18 版. 南山堂. (2004): 1560

. . . P1

生体内に存在する L-乳酸には、ヨーグルト等から摂取されるもののほか、解糖系におけるグルコースの分解による内因性のもの、腸管中のバクテリアにより生産されるものに由来する。

生体内に存在する D-乳酸には、ヨーグルト等から摂取されるもののほか、解糖系におけるメチルグリオキサル経路による極微量の内因性のもの、腸管中のバクテリアにより生産されるものに由来する。

追 2 上代淑人(監訳). 脂質代謝/糖質代謝の調節(乳酸回路). ハーパー・生化学, 原書 21 版. (1998): 155-156, 207.

. . . P2

組織及び血中に生じた、または摂取された L-乳酸は肝臓に運ばれ、糖新生経路を経てグリコーゲンとなり貯蔵されるか、グルコースに再生されて各臓器に運ばれ、二酸化炭素と水になる (乳酸回路/Cori 回路)。

追 3 M. T. Colomina,, etal., Concurrent Ingestion of Lactate and Aluminum can Result in Developmental Toxicity in Mice, Res. Commun. Chem. Pathol., (1992) 77, 95

. . . P6

CD-1 マウス (妊娠期 6~15 日、12 匹) に乳酸 (570 mg/kg 体重/日) を 10 日間強制経口投与したところ、母動物の摂餌量減少及び肝比重量低下がみられ、胎児で頭頂骨骨化遅延の増加が認められた。

追4 Mutagenecity Test on Lactide in an In Vivo Mouse Micronucleus Assay FINAL REPORT (1995)

. . . P18

Ctrl;CD-1BR系マウス (各群雌雄5匹) を用いた骨髓小核試験 (最高用量3,350 mg/kg体重の単回強制経口投与) では、陰性であった。

追5 岡真一, 高田昇, 福武勝幸, 松下修三. NRTIによるミトコンドリア障害. ブリストル・マイヤーズ(株). (2002):1-6

・ ・ ・ P50

追6 第145回 栄養士国家試験徹底解説 臨床栄養学20-123

・ ・ ・ P58

乳酸が血液中 445 mg/L (5 mmol/L) 以上の濃度で現れると乳酸アシドーシスになる。

追7 E.Leschke, Fortschritte in der Erkennung und Behandlung derwichtigsten Vergiftungen,Munch.Med.Wschr.,(1932)79:1481

・ ・ ・ P59

追8 G.Nazario.AGENTE ACIDULANTES UTILIZADOS EM ALIMETOS,Rev.Inst Adolfo Lutz,(1951)11:141.

・ ・ ・ P64

ヒト (27 歳女性) に、33%乳酸 (100 mL) を十二指腸内に誤投与した症例で、12 時間以内に死亡したとの報告がある。

追9 竹川潔, 安原加壽雄, 三森国敏, 小野寺博志, 下武男, 高橋道人. 乳酸鉄 26 週間混餌投与ラットにおける毒性. 衛生試験所報告. (1995) 113: 58-63

・ ・ ・ P88

雌雄の 5 週齢の F344 ラット (各群 5 匹) に乳酸鉄 (0、2.0% ; 0、1,000 mg/kg 体重/日) を 26 週間混餌投与した試験において、血液学的及び血清生化学的検査では、雄の投与群に貧血傾向が認められた。雄の投与群で体重は有意に低値を示し、雌雄の投与群で脾臓比重量が、雌の投与群で腎比重量が有意に高値を示した。雌雄の投与群で肝臓及び腎臓の過酸化脂質の高値がみられた。病理組織学的検査では、雌雄の投与群の肝臓、腎臓及び脾臓、並びに雌の投与群の腸管粘膜に褐色色素の沈着が認められた。これらの変化は、乳酸によるものではなく、いずれも鉄イオンに起因すると考えられた。